

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

SDGsとゴルフ



SDGsとは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称。

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であり、17のゴール・169のターゲットから構成されている。

ゴルフの授業を通じて 若者がどんどん笑顔に!

ゴルフは18ホールの中で喜怒哀楽が交錯し、人生模様が映し出されると言われる。このゴルフで学べる人生訓を体系化した「ゴルフロジー(ゴルフ+ソシオロジー(社会学))」という学問をご存知だろうか?

第36回【スイングだけではなく人生を学ぶ“ゴルフロジー”とは?】

ゴルフの授業で スイングだけでなく生き方を習得

ゴルフロジーを提唱し、大学で非常勤講師として教えているのは足立美都樹氏だ。大学時代はゴルフ部のキャプテンを務め、チームを全国団体準優勝に導いた。その後、トップアマとして活躍し、尾崎直道プロのキャディなども務めた経験を持つ。このゴルフでの様々な経験を通じて、ゴルフほど人財(材)が育つスポーツはないと確信。母校の至学館大学で、ゴルフロジーの授業を行っている。

「スイングも教えるが、ゴルフと社会の共通点を見つけて教えることがこれから社会に出ていく学生たちにとって重要」と足立

氏。ゴルフの授業ではあるが、社会に出た際に役立つルール、マナー、人間関係の構築、そして先読み力など、実践的な社会生活の知恵が教えられている。



真ん中が足立美都樹氏。至学館大学卒業式にて教え子と記念撮影。

チームでの学び合い: 他者との理解を深める

個人スポーツと言われるゴルフだが、足

立氏の授業では学生同士が数人でチームを組んで学び合う。これによって、他者と自己の理解を深め、人としての成長を促す。他者とのコミュニケーションやチームワーク、リーダーシップなど、社会で求められるさまざまなスキルを習得する。

また、ゴルフの実技指導の前には必ず講義が行われ、社会における問題解決にも役立つ考え方のヒントを提供。例えば「人間関係とゴルフは距離感が大事」、「自分に期待することと自分を信頼することの違い」などという視点で、ゴルフと人生について考える時間を作る。

ゴルフロジーの授業は15回で完結。毎回違うゴルフ&人生に関する課題が与えられる。学生たちはチームの仲間や足立氏とともに考え、どのように対応していくべきかを学ぶ。

笑顔の若いゴルファーが 続々誕生

授業の写真を見ると足立氏も大学生の皆さんも底抜けに明るい。練習場でのゴルフレッスンなどでは、どちらかというと



練習場にて。学生はみんな笑顔。

難しい顔でスイングと向き合っている方が少なくない印象だが、ゴルフロジーの授業では、学生はゴルフを心から楽しんでいる。

そしてゴルフだけでなく今後生き抜くための多くのことを学んでいる。ゴルフも人生も、困難もあるが素晴らしいと感じている。学生の声をいくつか紹介しよう。

- ・「ゴルフの授業の枠を超えて今後の私の人生に必要なことを教えていただいたりして、感謝の気持ちでいっぱいです」。
- ・「褒めあったり、助け合ったり、励まし合うことで仲間も増えていき、言葉では表し切れないくらいの経験が出来ました」。
- ・「この先社会に出る人間として、先生の話をしきりに思い出しながら生活、活動していくことで、きっと自分の周りには自分を大切にしてくれる人間が集まっていると思っています」。



15回の授業完結後、ゴルフコースでのハーフラウンドも実施。

ユニセフが2020年にまとめた報告書によると、日本の子どもの「精神的幸福度」は先進38カ国で37位だった。若者の生きづらさが問題になっている日本社会で、ゴルフロジーは若者に希望を与える役割も担う。